

徳総第 144 号

平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省 道路局長 殿

徳之島町長 高岡 秀規



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

上記の事について、別紙のとおり提出いたします。

急速に少子高齢化が進む中、離島及び中山間地域等においては集落の衰退や消滅も懸念されております。本町においても人口減少が著しく過疎化が進み、労働力人口の減少に伴う経済活力の低下、社会保障費の増大等による財政状況の硬直化、更に公共事業費抑制により、思うようにインフラの整備が進まない状況にあります。人口減少社会の到来と急速な高齢化の進展に対応したバリアフリー施策の充実・強化等を位置付け、良好な景観の形成に配慮した潤いのある豊かな生活環境の創造、地域の自然、歴史、文化等の地域の個性や特色を活かした道路事業の推進が望まれます。

近年の自然災害の増加やその激甚化、質的变化、事故の多発化等を背景に、本町でも災害リスクの増大が懸念されています。特に自然災害については、地球温暖化に伴う気候変動等の影響による集中豪雨災害や異常渇水の増加等が予測され、国による早急な対策が望まれております。地球温暖化による地球規模での生態系の異変や、経済活動による環境破壊が国民の最大の関心事となっております。地球温暖化の防止や循環型社会の構築、自然環境の保全・再生等、環境への関心が高まっている。本町においては漁業、水産業は重要な基幹産業であります。離島域では、燃油・資材価格や出荷に要する経費が本土域に比べ高く、また台風の常襲等による出漁制限や漁業被害から産業としての不利益性が高く、漁業就業者の減少、高齢化等の進展が顕著です。まだ原因は特定されていないが、近年、奄美海域から藻場が消滅して何年も回復しない磯焼けの現象が続いています。水産資源の枯渇による漁獲量の減少が続き、漁業経営を圧迫しています。今後は環境をテーマにした事業の推進が望まれます。

社会資本の老朽化等への対応

高度経済成長期に社会資本の整備が進められてきたが、今後、老朽化に伴う維持管理の重要性が益々高まっています。厳しい財政状況の中、限られた予算で豊かな国民生活を実現していくためには、今までに蓄積された社会資本を活用しコスト削減を図っていく必要があります。本町が抱える大きな問題点は既存道路や橋梁などの老朽化に伴い、その維持管理費用も年々増大しています。多くの橋梁は昭和中期に架けられたものがほとんどで、その多くが架替えが必要となっています。対策としましては橋梁長寿命化修繕計画を策定し、その結果によって、国庫補助事業での維持補修や架替え等の事業要望して行きたいと考えています。今後、莫大な予算が見込まれ、町の厳しい財政状況では対応が難しく、国庫補助事業での高率補助・予算の拡充が望まれます。

○現状

本町の道路網は徳之島を周回する主要地方道路に市町村道が放射状に接続し、空港や港湾へ連結しています。外海離島の厳しい自然条件下にある本町の交通手段は自動車に頼らざるを得ない状況にあります。広域的な道路網の整備は地方生活圏の根幹をなすものであり、地域の生活基盤の強化、良好な生活環境の確保を進める上からも群島内外を結ぶ交通体系の整備は不可欠であります。地方の自立が強く求められている現在、道路網の整備は魅力あるまちを構築していくための最も重要な社会資本整備であり、本町の基幹産業である農林水産業や観光などの地域振興や救急医療、防災対策、通学道路の整備、などの観点から地方道路の整備は不可欠であります。しかしながら、本町の道路整備は未だ遅れている状況にあり、早急な整備が求められております。差し迫って本町が抱える大きな問題点は既存道路や橋梁などの老朽化に伴い、その維持管理費用も年々増大しています。多くの橋梁は昭和中期に架けられたものがほとんどで、その多くが架替えが必要となっています。対策としましては橋梁長寿命化修繕計画を策定し、その結果によって、国庫補助事業での維持補修や架替え等の事業要望して行きたいと考えています。今後、莫大な予算が見込まれ、町の厳しい財政状況では対応が難しく、国庫補助事業での高率補助・予算の拡充が望まれます。

○課題

本町は外海離島の厳しい自然環境のなか、交通手段として自動車に頼らざるを得ない状況にあり、主要地方道はもとより生活に密着した市町村道の整備は必要不可欠であります。急速に少子高齢化が進み、労働力人口の減少とそれに伴う経済活力の低下による地方財政の悪化により、離島及び中山間地域等においては集落の衰退や消滅も懸念されております。高度経済成長期に整備されてきた社会資本が、今後、老朽化が進み、維持管理もおぼつかない状況にあります。地球温暖化の防止や循環型社会の構築、自然環境の保全・再生等、環境への関心が高まりをみせているなか、さらに美しい景観や文化、誇りの持てるまちづくり・地域づくり、が望まれております。現在地方においては、主要な幹線道路のネットワークの形成をはじめ、防災対策、通学道路の整備、農林水産業や観光などの地域振興や救急医療、災害時における交通手段の確保などの観点から港湾整備・地方道路の整備が緊急の課題となっております。

今後の道路行政についての意見・提案

様式③

②-2地域の目指すべき将来像

鹿児島県徳之島町

本町の基幹産業である農業振興を図る為に、国営の農地開発事業を始め、県営畑総事業等で大規模の農地開発が進められています。本町の道路網は徳之島を周回する主要地方道路に市町村道が放射状に接続し、空港や港湾へ連結しています。主要な幹線道路のネットワークの形成をはじめ、防災対策、通学道路の整備、農林水産業や観光などの地域振興や救急医療、災害時における道路網の確保などの観点から地方道路の整備を進めて行きます。

徳之島町市街地内は都市計画事業の計画決定が昭和46年9月1日付けで成されています。当時は地権者の同意が得られず都市計画事業は未着手のまま現在（約40年）に至っており、長年の懸案事項になっております。現在、都市計画事業がネックとなって市街地内の街作り事業の進展は望めません。今後も社会情勢の変化及び財政が困窮した中で事業実施は難しいものがあります。特に中心市街地では家屋の密集と老朽化が進み、狭隘な道路が多く、緊急自動車の進入が困難で、居住環境面や防災面でも多くの課題を抱えています。町では平成20～21年度にかけて地域住民の意向調査を実施し、既成市街地の活性化や地域振興を含めた街作りの方向性を検討したいと考えています。

現在、公共下水道事業は第1期工事として平成17年度～平成23年度までの6年間に56haの一部供用開始に向けて工事が進められています。全体計画として平成17年度～平成35年度までに亀津亀徳地区の全域の143haの計画ではありますが、今後も整備を進め、生活環境の改善および河川海域等の水環境の保全を図って行きたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

鹿児島県徳之島町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	○亀津池田線改良工事 ○亀津蔵越線改良工事 ○都市計画事業	○広域道路網の整備、交通安全対策 危機管理の強化、地域振興に繋がる道路、地域の現状にあった道路整備 ○交通安全対策、健全な街作り、 危機管理の強化	